

女性に対する暴力をなくす運動講演会

被災地におけるDV・性暴力被害者支援

〜宮城からの実践〜 講師 八幡悦子氏

大規模災害の被災地では、避難生活などのストレスから、家庭内暴力が増加する可能性があります。熊本でも、避難先や仮設住宅での生活が続く中、見えない場所での女性達への暴力被害が懸念されます。そこで、11月15日(火)、NPO法人ハーティ仙台代表理事の八幡悦子さんをお招きし、暴力被害の防止や、被害に苦しむ女性達への支援について考える講演会を開催しました。



東日本大震災で支援のため各地の避難所を訪問した際、更衣室や授乳室もなく、女性のプライバシーが保護されていない現実を多数目にしました。被災地支援のリーダーのほとんどが男性で、災害弱者である女性やセクシャルマイノリティ等の方達の意見が届きにくい状況がありました。その経験を踏まえ、避難所マニュアルに各々の立場で必要となるプライバシー確保の視点を反映させる必要性を各地で伝えていきます。また、無料電話相談の広報も重要で、確実により効果的に女性に情報を届けるため、下着を配布する際に広報カードを同封するなど工夫を行いました。

震災直後、数ヶ月後、数年後と状況は変わっていきます。相談内容もその時々で変化し、震災直後はあまりなかったDV相談も震災から時間が経つにつれ増えていきました。将来への不安からうつ状態が悪

八幡悦子氏

助産師、NPO法人ハーティ仙台代表理事、(公財)せんだい男女共同参画財団理事ほか。NPO法人ハーティ仙台でDV被害者や性暴力被害者をサポートする様々な活動を行う。東日本大震災では、被災地女性と全国の支援者をつなぐ「みやぎジョネット」を立ち上げた。現在も被災地の女性へ復興支援を行う。

化したり、仮設住宅の狭さや壁の薄さが気になったり、そういった環境で発生する弱者への八つ当たりがDVにつながります。

災害支援ボランティアによる性暴力も発生しました。震災で家族を亡くした一人暮らしの女性や心細い母子家庭などへ、震災のボランティアで外からきた人が近づき、地縁や血縁もないため遠慮無く迫ったり、個人情報を入力して付き合ひ、暴力をふるう人もいました。それがDVだと気づかない、気づいても戦うすべを知らない女性への支援を、行政もNPOも民間も、みんなで一緒になって考えることが大切です。大切なことは「知っていること」そして「つながること」。自分が被害を受けた時、相談を受けた時どこに助けを求めたらいいのかを知ること、自分自身や他の誰かを守ることに結びついていきます。

平成28年度熊本県女性経営参画塾

10月から11月にかけて行われた「熊本県女性経営参画塾」。「女性の力」を最大限発揮できる社会づくりをめざし、熊本県の企業や団体の女性管理職、将来役員候補とされる女性社員を対象に、全6日間7講座が開講されました。各分野のエキスパートを講師に迎え、自己分析やコーチング術、決算書の読み方等についての講座が行われました。



の充実と改革に力を入れています。」

講演後の意見・情報交換会では4グループに分かれてディスカッションが行われました。これまでの講師の皆さんも加わり、受講後の変化や疑問、感想など、各グループ大変盛り上がりしました。講座の最後には修了式が行われ、修了証書を受け取った塾生からは「具体的な目標設定の大切さを知った」「部下の話にもっと耳を傾けたい」「自分自身が変わることが周囲を変えることにつながることに気づいたなど、自身のこれからの仕事へ向けた決意表明がなされました。



11月20日(日)の最終回では、「イマドキのリーダーシップ」をテーマに株式会社インキューブ西鉄代表取締役社長の石川たかねさんによる講演が行われました。西鉄グループ初の女性社長としてロールモデルにもなっている石川さん。理想のリーダー像とは何か、新入社員時代、係長時代、課長時代、社長の今、とそれぞれの段階ごとに自身の経験を交えながら具体的にお話しされました。「仕事は人に始まり、人に終わる。一人ひとりを生かして育てる会社は成長していきます。だからこそ、コミュニケーションを密にとり、部下が元気に働いていける環境づくりを第一に考えます。そして、社員一人ひとりが考えて仕事をし、会社の中に沢山の小さなリーダーをつくるのが会社の盤石化につながっていきます。これこそが今の時代のリーダーシップ像ではないでしょうか」「社長になった現在は、なにより社員全員が幸せになってほしい。入社してよかった」と思える会社を目標に社内環境

広がる女性活躍推進の取組み

～各金融機関でキャリア支援の異業種交流会開催～

熊本銀行と損保ジャパン日本興亜はゆうちょ銀行と平成27年10月に3社共同で交流会を行い、それぞれの組織から約30名の女性が参加しました。

肥後銀行は昨年に続き平成29年1月に第2回目の交流会を開催。県内企業8社と熊本県職員を対象に、管理職を目指す女性26名が参加しました。

交流会では業種や業界を超えて、これからの女性活躍を考える講演会やディスカッション等を行い、意見や情報を交換しました。

このような交流が深まることで、熊本で働く女性のネットワークが広がり、元気で活気ある社会に発展することが期待されます。

男女共同参画inパレア ワークショップ 10月22日(土)



今回は、親子での共同作業で色と人の温もりに触れることができました。

親子であそぶ

パステルアートに挑戦

「好きな色からまなぶ男女共同参画」

主催：あそび寺子屋

パステルアートとは、自分の好きな色のペンを削り、その削ったペンの粉を使って、指で自由に色を重ねて絵を描いていくものです。色を重ねることで、意外な色に変化したり、描いているうちに絵が発展したりと、その時々で自由な作品ができあがります。「色は『女の子の色』『男の子の色』と決めつけるのではなく、その時の心境で色を選ぶので、心の状態も知ることができます」と講師の糸永先生。「親子や友達と一緒に作品を作ること、互いの心境を知ることができ、共同作業により思いやりのあるやさしい心を育むこともできます。さらに子どもだけでなく、大人も無心で作品づくりに向き合うことでストレスも消え、作品を完成させることでの達成感にもつながります」